

⑤日本分類
118 A 38
118 A 3
118 A 37
118 A 531

日本国特許庁

⑩実用新案出願公告

昭45-24978

④実用新案公報

④公告 昭和45年(1970)9月30日

(全2頁)

1

④筆記具

①実 願 昭41-78726
②出 願 昭41(1966)8月22日
③考 案 者 加地健
東京都中央区日本橋茅場町2の1
3セーラー万年筆株式会社内
④出 願 人 セーラー万年筆株式会社
東京都中央区日本橋茅場町2の1
3
代 表 者 阪田正三
代 理 人 弁理士 鈴江武彦 外4名

図面の簡単な説明

図面は本案の一実施例を示し第1図は縦断側面図、第2図は筆記時の縦断側面図、第3図はカム溝の展開図である。

考案の詳細な説明

本案は比較的長さの短い軸筒内にペン本体の出没に関連して軸筒先端より出没する長さ調節用の移動筒を設け、不使用時ペン本体と共に前記移動筒を軸筒内に没入させペン全体を短くして携帯便利にすると共に、使用時ペン本体と共に移動筒を軸筒先端より突出させペン全体を長くして具合よく筆記できるようにした筆記具に関する。

以下本案の一実施例を図面に従い説明すると図中1は比較的長さの短い軸筒で、該軸筒1末端に後述する繰り出し機構aが設けられている。この繰り出し機構aによつて作動されるペン本体2が前記軸筒1内に設けられている。このペン本体2は先端より小径部3、中径部4、大径部5が各々設けられ、前記小径部3先端に設けたボール6にペン本体2内に充填されたインキが導出されるようになってい。前記軸筒1先端内にその開口部7より出没可能に長さ調節用の移動筒8が設けられ該移動筒8は、その末端鉤部9と軸筒1内壁に設けた段部10との間に介在したスプリング11により常時軸筒1内に退入するように偏倚されている。尚前記移動筒8は、その退入時軸筒1内に設

2

けたストッパ12により溢りに軸筒1内に入り込まないようになっている。前記移動筒8はその開口部より末端側に連通して前記ペン本体2の小径部3、中径部4が各々入り込む小径部13、中径部14、大径部15が設けられている。そして前記移動筒8の中径部14と大径部15との段部16と、ペン本体2の中径部4と大径部5との段部17との間に介在したスプリング18によりペン本体2は常時軸筒1内に退入するように偏倚されている。

前記繰り出し機構aは、前記軸筒1末端に設けた回転筒19内面に第3図の如くカム溝20を設け該カム溝20にペン本体2末端部に設けた係合突部21が係合されていて、該突部21がカム溝20の末端休止部b側に位置している時は、移動筒8は軸筒1先端より内方に退入し、ペン本体2の先端部は移動筒8内に退入しており移動筒8の鉤部9は軸筒1内にストッパ12に衝止して移動筒8、ペン本体2の退入状態が保持されている。そして回転筒19を回転すると、ペン本体2の係合突部21はカム溝20の傾斜に沿つて強制的に先端休止部c側に移動され、ペン本体2はスプリング18に抗しながら適宜構造により回転したいで、前方に移動し、その先端小径部3は、移動筒8開口部より突出すると共に、移動筒8の小径部13、中径部14の段部22とペン本体2の小径部3、中径部4の段部23とが衝合し、ペン本体2と共に移動筒8がスプリング11に抗しながら軸筒1開口部より突出し、第2図の如くペン全体1だけ長くなる。その時、ペン本体2の突部21はカム溝20の先端休止部cに係合し、該休止部により第3図の如くペン本体2の突出状態が保持されている。前記回転筒19を前記と逆回転すると、ペン本体の突部21とカム溝20の係止部cの係合が外れ、カム溝20に案内されペン本体2は、スプリング18の弾力力により後方に移動すると共に先端小径部3は移動筒8内に没入し移動筒8もスプリング11の弾力力により軸筒1内に没入し、その鉤部9がストッパ12に衝

BEST AVAILABLE COPY

3

4

止し、移動筒8が保止され第1図の如く全体の長さが縮小された状態になる。なおペン本体2及び移動筒8の移動ストロークはカム溝20の先端休止部cから末端休止部bまでの長さlを適宜設定することにより適宜設定できる。

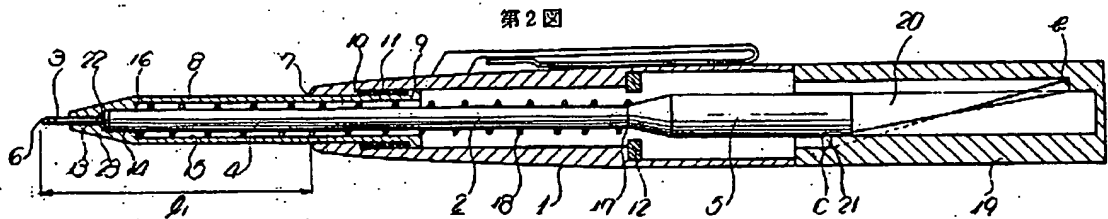
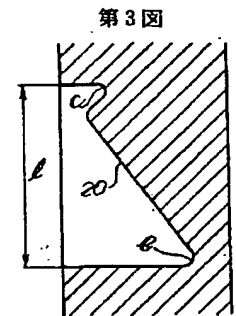
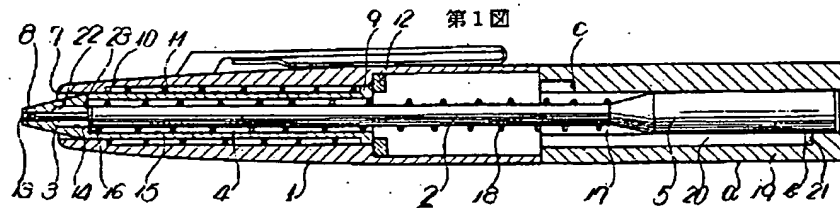
本案は上記の如く、比較的長さの短い軸筒1内に繰り出し機構aにより出沒するペン本体2と、該ペン本体2の移動に伴って出沒する移動筒8を設けたから、使用時、ペン本体2及び移動筒8を軸筒1外方に突出させればペン全体が長くなり、具合よく筆記できると共に、不使用時ペン本体2及び移動筒8を軸筒1内に没入させれば、軸筒1は比較的短かいのでペン全体が知かくなり携帯に便利になる。又、その操作は簡単である。

尚本案実施例に於いて、ペン本体2はボールペン中芯について述べたが、キャップレス万年筆の

ようにペン先、ペン芯等を含えた筆記体であつてもよい。

実用新案登録請求の範囲

- 5 末端部にペン本体繰り出し機構を設けた比較的長さの短い軸筒と該軸筒の先端側内部に出入り可能に設けられ、スプリングによつて常時退入すべく偏倚された全体の長さを拡大及び縮小する長さ調節用の移動筒と、上記繰り出し機構の作動によつて移動筒の先端部より出沒するように軸筒内に設けられ、且つ移動筒に一端を支持させたスプリングによつて常時退入すべく偏倚されたペン本体とを具え、ペン本体進出時この移動に関連して前記移動筒を進出移動させて軸筒先端より突出させるこの移動筒先端よりペン本体先端が突出し得るよう



BEST AVAILABLE COPY